

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



令和3年12月

海老名市立海老名中学校

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

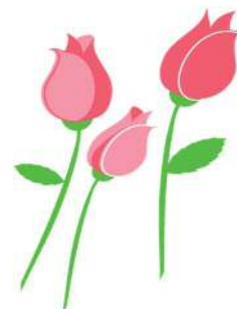
調査内容

- (1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



中学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・話合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみる。
- ・質問の意図を捉えることができるかどうかをみる。
- ・話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫をすることができるかどうかをみる。
- ・文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかどうかをみる。
- ・相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかどうかをみる。
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解することができます。
- 場面の展開、登場人物の心情や行動などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができます。
- 伝えたい事柄を相手や場面に応じた言葉遣いで書くことができます。

◆課題のある点

- 話合いの話題や方向を踏まえ、質問の意図を捉えることについて課題があります。
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉えた上で自分の考えを形成することに課題があります。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 話し合い活動において、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えを「聞く」ことにも重点を置くように指導を工夫します。「聞く力」を高めることにより自分と他者の考えの共通点・相違点を整理する力を養います。
- 文章の内容を捉えた上で自分の考えを形成する力を高めるために、交流活動を通して理解したことを他者に説明し、他者の考えやその根拠などを知ることができるような指導を行います。また形成した考えを具体的に書くことができるような課題を設定し、表現力を伸ばしていきます。
- 身につけている力をさらに盤石なものにするために漢字練習や語彙を増やすなどといった言語の力の定着をはかる学習指導を行います。

中学校 数学

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・整式の加法と減法の計算ができるかどうかをみる。
- ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができるかどうかをみる。
- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解しているかどうかをみる。
- ・関数の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・与えられたデータから中央値を求めることができるかどうかをみる。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・相対度数の必要性和意味を理解しているかどうかをみる。
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解しているかどうかをみる。
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 数学的な技能がきちんと身についています。
- 問題場面における考察対象を明確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができます。
- ヒストグラムなどの表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができます。

◆課題のある点

- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題があります。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 無解答率が低いことから課題に前向きに取り組むことがわかりました。興味関心を持ち苦手や分からない問題に対しても前向きに取り組む姿勢がさらに育つよう指導を工夫します。
- 技能や知識は身についています。さらに力を伸ばすために既習内容を復習し、定着をはかる学習指導を行います。
- 全体的に数学的に説明することに課題があったので、グループ学習を行いいろいろな考えや意見に触れ、見方や考え方が深まるように学習活動を工夫します。

生徒質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

○「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立て方などを工夫して発表していましたか。」の質問では、「発表していた」・「どちらかといえば、発表していた」と答えた生徒は全国平均より19.4ポイント上回りました。自分の考えがうまく伝わるよう努力・工夫していることがうかがえます。

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」の質問では、「3時間以上」と回答した生徒は全国平均より、12ポイント上回り、「2時間以上3時間より少ない」と回答した生徒は全国平均より4.2ポイント上回りました。学校以外でもよく勉強していることがわかります。

○「1、2年生のときに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度受けましたか。」では「ほぼ毎日」・「週1回以上」と回答した生徒は全国平均より12.2ポイント上回りました。現在は各教科でICT機器を活用した授業を展開しています。

◆本校の課題と思われるところ

・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、肯定的な回答が全国平均より4.1ポイント下回りました。社会生活では文書でやりとりする機会が増えます。文書で正確に相手に伝えたり、相手が伝えようとしていることを正確に理解できるかが重要となります。

生活について

◆本校のよかったところ

○「自分にはよいところがあると思いますか。」では「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は全国平均より5.5ポイント上回りました。自己肯定感が高い傾向が見受けられます。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問では「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は約85%でした。全国平均より4.2ポイント上回りました。学校生活が充実していることがわかります。

◆本校の課題と思われるところ

○「将来の夢や目標を持っていますか。」の質問では、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は全国平均と比べ、11.2ポイント下回りました。将来の夢や目標が、はっきりとしていないようです。

○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。」では肯定的な回答をした生徒は全国平均より16ポイント下回りました。「失敗は成功の元」です。何事にもチャレンジをしましょう。

今後の具体的な取組について

○各教科等でさらに発言や書く機会を増やしたり、他人の意見を聞いて、自分の考えを深めたりしていきます。

○将来の職業や生き方について考える機会を設け、将来の夢や目標につながるようにしていきます。また、学校生活の中で生徒が自主的に活動する機会を増やし、粘り強く取り組むようにしていきます。

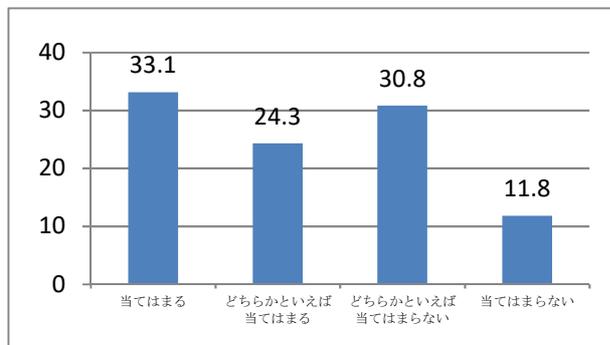
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の生徒質問紙の結果です。

1

夢や目標、将来のことについて語り合しましょう。

夢や目標を持つと、叶えるためにたくさん努力をします。時には失敗もありますが、失敗をしていく過程で心が強くなります。また本当に大切なことに気づいた時、人生が輝き、満たされた時間を送ることができるでしょう。

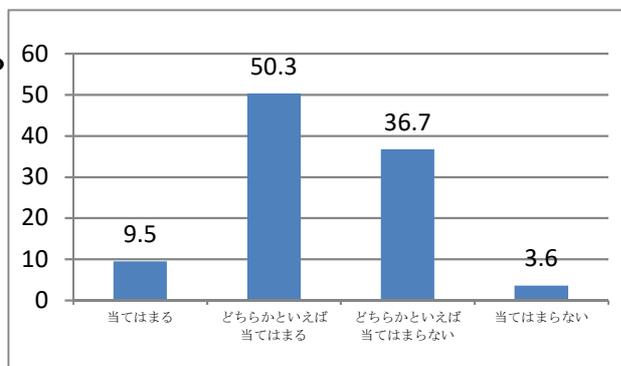


将来の夢や目標を持っていますか

2

色々なことに積極的に挑戦しましょう。

「一度の挑戦、一度の失敗で諦めてはいけない。」という言葉があります。何かチャレンジしようとする、失敗はつきものです。失敗して諦めてしまえば、失敗から学ぶことはできず、成長もできません。改善点を探し、克服していくことで大きく成長します。

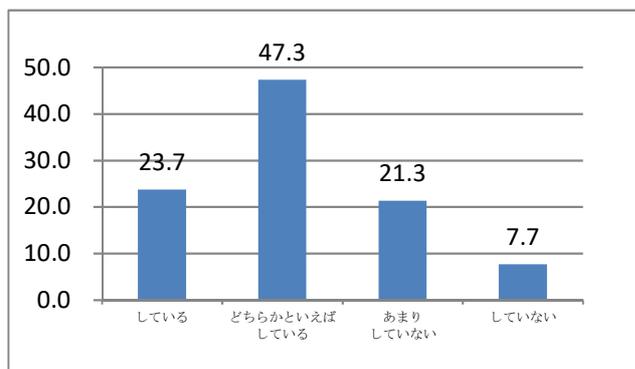


難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか

3

生活習慣を整え、意識しましょう。

しっかりと休息を取るためには、就寝後6～8時間経った頃に起きるのが最適です。起床時間や食事の時間を決めることによって、パフォーマンスを最大限にあげられます。1日のスケジュールの目安を決め、習慣として定着するよう意識し、心がけましょう。

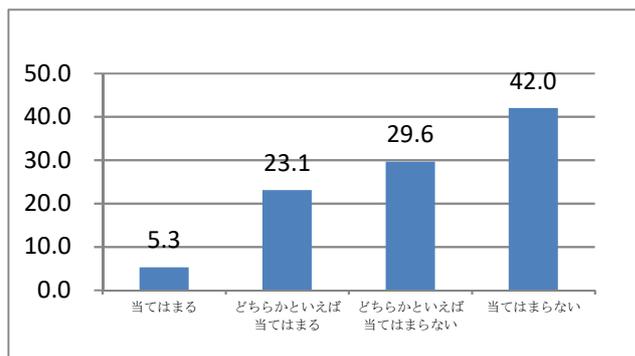


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

4

地域に関わるようにしましょう。

地域の方は中学生のことを温かく見守ってくださっています。まずは「あいさつ」から始め、地域のリーダーとして地域を支える中学生として、地域の人とつながる行事に参加してみましょう。



今住んでいる地域の行事に参加していますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

